

# 福島県災害時学校支援チーム 「HOPE-F（ホープふくしま）」 最終報告会 成果報告資料

令和8年2月27日

福島県教育委員会



「ふくしま応援！『ベコ太郎』」

**HOPE-F**

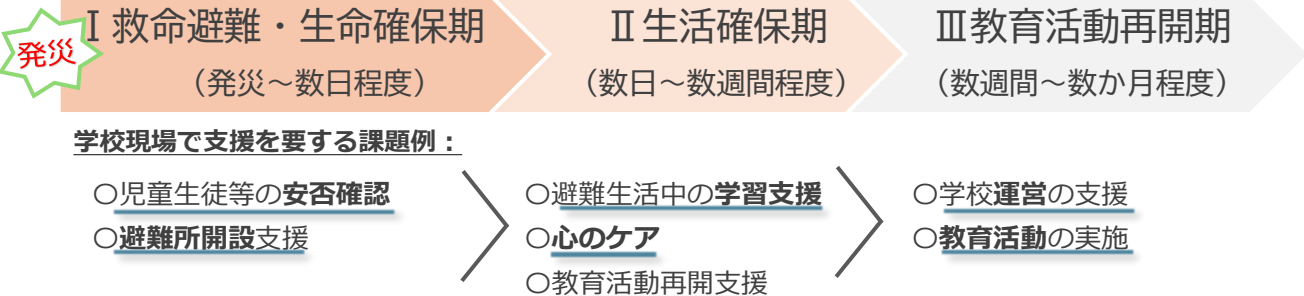
Help with Outreach to Promote Education from Fukushima

## 「HOPE-F」とは……



- ▶ 発災時の**学校再開へ向けた環境整備**や**心のケア**等のため、県内外において**被災した学校等へ派遣されるチーム**。
- ▶ 東日本大震災及び原子力発電所事故の経験と教訓を踏まえた研修等を実施し、**実践的な対応能力のある教職員等**で構成される**チーム員を養成**。

●施設被害や教職員の被災等の課題がある学校で被災地の教職員等と連携した外部支援が必要



## 1 HOPE-F 組織体制

▶ 教育庁内関係課を中心に「HOPE-F(ホープふくしま) 庁内会議」を構成し体制を整備。チーム員は希望する県立学校教職員や教育庁職員等。

平常時

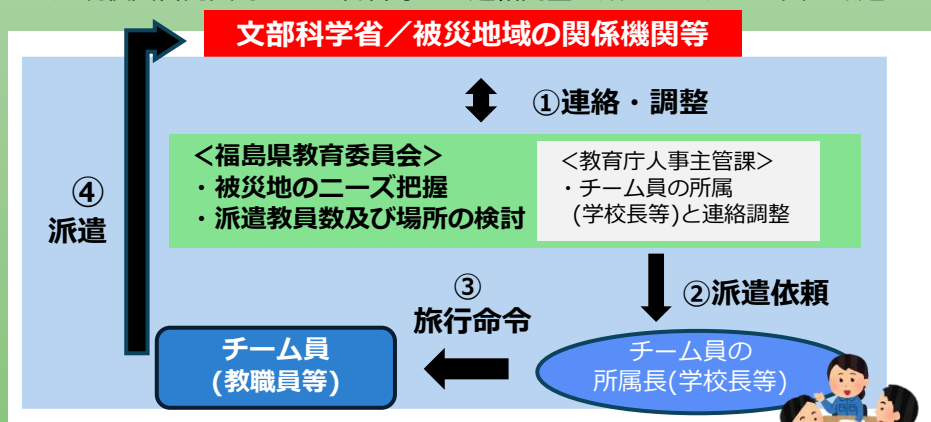
- ・体制整備等に係る**庁内会議の運営**【総】
- ・チーム員**名簿の登録・管理、育成・研修**【社】
- ・平時の**防災教育の充実**【健】など

発災時

- ・被災地の**情報収集**【総】
  - ・チーム員の**派遣調整、現地活動の支援**【総】
  - ・チーム員の**所属先との調整**【職・高・特】など
- ※【総】教育総務課、【社】社会教育課、【職】職員課、【高】高校教育課、【特】特別支援教育課、【健】健康教育課

## 2 教職員派遣フロー

▶ 大規模災害発災時に、文科省等との連絡調整を踏まえ、チーム員を派遣。



## 3 令和7年度の取組

(下線:チーム員出席)

4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4/1 HOPE-F設置要綱等施行</li> <li>・ 4/17 HOPE-F庁内会議開催</li> <li>・ 4/28 チーム員募集開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8/7 災害時学校支援体制構築事業採択(文科省事業)</li> <li>・ 8/8 第1回研修～キックオフミーティング～</li> <li>・ 8/22 第7回学校支援チーム意見交換会(オンライン・文科省)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 11/7 第8回学校支援チーム意見交換会兼文科省事業中間報告会(対面・文科省)</li> <li>・ 11/27 第2回研修～対面研修会～</li> <li>・ 12/22 情報交換会(宮城県主催)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1/16 第9回学校支援チーム意見交換会(オンライン・文科省)</li> <li>・ 2/20 チーム員研修(対面・文科省主催)</li> <li>・ 2/27 文科省事業成果報告会(対面・文科省)</li> <li>・ 2/20 チーム員オンデマンド研修</li> </ul>

# HOPE-F

Help with Outreach to Promote Education from Fukushima

# 1 HOPE-Fについて

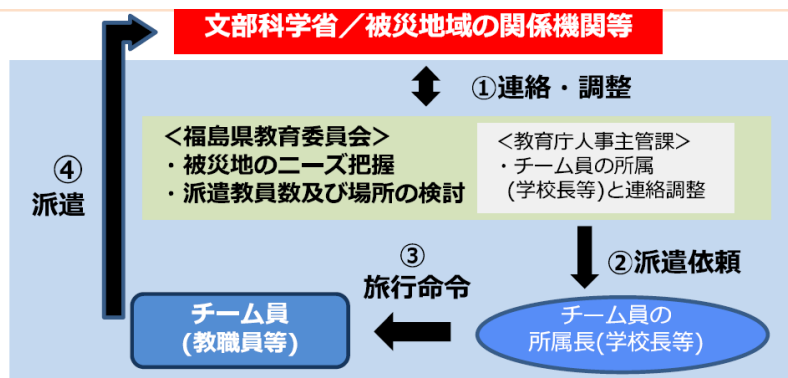
○HOPE-Fとは

「**H**elp with **O**utreach to **P**romote **E**ducation from **F**ukushima」

○教育庁内関係課を中心に「HOPE-F(ホープふくしま) 庁内会議」を構成し、体制を整備。

○令和7年度は希望する県立学校教職員及び教育庁職員で構成。  
→チーム員として登録された者を対象として研修を実施する。  
(R8.2.27現在27名が登録)

○「チーム員登録→研修の実施」としているため、登録されていても、研修を受けていないチーム員は被災地へ派遣しない。  
(上記登録チーム員のうち、現在派遣可能なチーム員は20名)



## HOPE-F

Help with Outreach to Promote Education from Fukushima

## 2 令和7年度の事業報告（主に研修について）

- 大規模災害発生に備え、専門的な知識や実践的な対応能力を有する教職員を育成するとともに、東日本大震災から時間が経ち、震災学習の教材開発に苦慮する教員もいることから、広く学校現場での震災・防災教育に寄与するための研修を行う。  
東日本大震災について教員が学び直すことが、現地での寄り添う力になる。  
さらに、新たにチーム員へ登録しようとするきっかけとなる。

### 【令和7年度の研修体制】

- ①キックオフミーティング（チーム員悉皆）
- ②対面研修会（チーム員＋一般教職員等）
- ③オンデマンド研修（チーム員（悉皆）＋一般教職員等）



**HOPE-F**

Help with Outreach to Promote Education from Fukushima

## 2 令和7年度の事業報告（主に研修について）

- 関係機関に対してチーム員募集についての通知を令和7年4月に行い、締め切り日を設定せずに、年間を通して申し込みを受け付けている。
- 所属長の承認を得て申し込むことを条件とし、申し込みがあった者は全員チーム員名簿へ登録している。
- キックオフミーティング及びオンデマンド研修はチーム員悉皆とした。特にキックオフミーティングはチームビルディングを兼ねており、災害時派遣の際はキックオフミーティングに参加したチーム員のみを派遣候補者として、チーム員の所属長に依頼をすることとしている。



**HOPE-F**

Help with Outreach to Promote Education from Fukushima

# ①キックオフミーティング（令和7年8月8日実施）

○チーム員20名参加

○初顔合わせとなったキックオフミーティングでは、支援チームの目的・役割、平時と緊急時の勤務等について確認した。また、基本的な支援の心構えについての研修を行った。



・ 講演「東日本大震災と福島」  
講師 NPO法人 富岡町3・11を語る会 代表 青木 淑子 氏



・ 講演「災害発生時における児童生徒の心のケア」  
講師 郡山メンタルサポート 代表 富森 崇 氏



・ 行政説明（派遣フロー、平時と緊急時の勤務等）

・ 基調講演「災害現場での支援活動」  
演習「災害現場で私たちにできること」  
講師 特定非営利活動法人にいがた災害ボランティアネットワーク  
理事長 李 仁鉄 氏



## HOPE-F

Help with Outreach to Promote Education from Fukushima

## ②対面研修会（令和7年11月27日実施）

○チーム員17名、一般教職員6名参加

○双葉町「東日本大震災・原子力災害伝承館」で開催し、心のケアについての演習等や、施設見学をすることで、福島現状を理解し、各学校での震災・防災教育につなげることを目的とした。

・研修講話「東日本大震災の経験を伝えること」  
講師 一般社団法人ふたばプロジェクト 小泉 良空 氏



・施設見学①「東日本大震災・原子力災害伝承館」  
見学ガイド 元富岡町役場職員 佐々木 邦浩 氏



・講演・演習「災害現場で私たちにできる心のケア」  
講師 日本赤十字福島県支部 野崎 謙司 氏



# HOPE-F

Help with Outreach to Promote Education from Fukushima

## ②対面研修会（令和7年11月27日実施）

○最後の時間は、チーム員と一般教職員の研修内容を分けて実施した。

### チーム員対象

- ・講演「災害時学校支援チームみやぎ（MIRAI）としての活動」  
講師 宮城県村田高等学校 教諭 高橋 朋 氏



### 一般教職員対象

- ・施設見学②「震災遺構 浪江町立請戸小学校」  
見学ガイド 一般社団法人まちづくりなみえ 事務局次長 菅野 孝明 氏

○対面研修会は、一般教職員の参加も可能とし、  
災害時に支援を行うチーム員としての資質向上だけでなく、  
平時の震災学習・防災教育等にも生かせる内容とした



# HOPE-F

Help with Outreach to Promote Education from Fukushima

### ③ オンデマンド研修

- オンデマンドとすることで、チーム員が被災地へ派遣される際の移動中にも視聴できる。
- チーム員になることを希望する教職員等も対象とし、平時の震災学習や防災教育にも役立ててもらおう。
- 研修内容は大きく以下の3つとした。
  - (1) 学校の防災、震災教育に役立てる
  - (2) 教員として災害時の対処法を学ぶ
  - (3) チーム員が平時の学習の学習として、また、発災時に支援する際の確認として利用する



**HOPE-F**

Help with Outreach to Promote Education from Fukushima

### ③オンデマンド研修

#### (1) 学校の防災、震災教育に役立てる

特別支援教育における防災教育	埼玉県立川島ひばりが丘特別支援学校 教諭 齋藤 朝子 氏
子どもたちが語る東日本大震災	子どもに音楽を贈る会 佐藤 敬子 氏
学校と地域で進める防災教育	会津若松市教育委員会 関谷 央子 氏
子どもたちが行う避難者支援	福島大学地域未来デザインセンター 特任准教授 藤室 玲治 氏

#### (2) 教員として災害時の対処法を学ぶ

災害時の心のケア	東京成徳大学 特任教授 石隈 利紀 氏
平常時から進める防災	高知大学 教授 大槻 知史 氏

### ③ オンデマンド研修

(3) チーム員が平時の学習の学習として、  
また、発災時に支援する際の確認として利用する

学校支援の方法	兵庫県洲本市立安乎中学校 (EARTH員) 教諭 岡本 栞奈 氏
避難所開設・運営の方法	福島大学地域未来デザインセンター 客員研究員 北村 育美 氏

- Googleドライブを福島県内の教職員で共有 (教職員アカウント所有者) する。
- 上記の他に、知事部局や他自治体で作成された資料、リンク等を掲載し、幅広く防災教育や震災学習に役立ててもらおう。



**HOPE-F**

Help with Outreach to Promote Education from Fukushima

### 3 今後に向けて

#### ○チーム員

今年度は県立学校の教職員や教育庁教員系職員を対象に募集したところ、27名からチーム員登録の希望があった。今年度は設置初年度であったため、20名程度の登録を目標としていたが、目標を上回る登録者数となった。

必須研修の参加者が20名であったため、被災地への派遣が必要となった場合、福島県として派遣できるのは最大で20名ということになり、この人数は登録者の74%にとどまる。

試算では、20名全員が派遣可能となった場合でも1か月程度の活動しかできない計算である。今後は、HOPE-Fのさらなる周知を行い、登録者数及び必須研修の参加者数を増やしていかなければならない。

### 3 今後に向けて

#### ○研修の充実

今年度の研修は、①キックオフミーティング ②対面研修会 ③オンデマンド研修とした。令和8年度も同様の研修を実施する予定である。

チーム設置1年目であったため、チーム員全員が同じ研修内容を受講したが、次年度以降も「福島県災害時学校支援チーム (HOPE-F)」を継続していくため、2年目、3年目と研修等の経験を積んだチーム員と、初めて登録するチーム員の研修をどのように計画していけば、それぞれがチーム員としてのスキルを高められるのか、検討する必要がある。



**HOPE-F**

Help with Outreach to Promote Education from Fukushima

### 3 今後に向けて

#### ○「福島ならではの」の防災教育・震災学習

東日本大震災の経験から、「もの」ではない、「人の生き方・心」に寄り添った支援活動を展開できるよう、研修内容を検討し、実施した。心のケアや避難所運営についての講話や演習はもちろんであるが、震災語り部や、中学校在籍時に原発事故による避難を経験した方の講話の時間を設定した。

また、東日本大震災・原子力災害伝承館や震災遺構浪江町立請戸小学校を会場にするなどして、福島県の教員だからこそ、震災について学び続け、震災の記憶を継承していけるようにした。

今年度登録されたチーム員に対して、各所属等での防災教育・震災学習への還元について3月に調査を行う予定である。



**HOPE-F**

Help with Outreach to Promote Education from Fukushima